

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201056		
法人名	社会福祉法人一燈園		
事業所名	グループホーム新別府一燈園 3階なごみ		
所在地	大分県別府市大字鶴見字新別府3051番地3		
自己評価作成日	平成26年1月28日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の体調の変化や、その人らしい生活を大切に日常生活の支援を行っている。・地域の運動会、合同の防災訓練など地域住民として利用者の方が過ごせるよう支援している。季節感を感じる食事を大切に、行事なども取り入れ、また家族と共に過ごす時間を大事に支援し、体調に合わせた食事の楽しさを忘れないように配慮している。ご家族のご意見、ご要望に耳を傾け、ご家族と共に利用者を支えている。・学習療法を継続されている利用者の方が、前頭葉の活性化と、コミュニケーション能力、エピソード記憶を継続されている。その人にあった生活リハビリに配慮し日常生活の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(2階なごみと同様)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえたサービスを心掛け、スタッフルームにて掲示し、会議でも理念を胸に発言するよう実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あいさつ運動を月1回参加したり、地域の行事に積極的に参加を行い、また園主催の交流の場を設け(夏祭り、秋刀魚の会)交流を行っている。地域合同の防災訓練を行い、地域の住民としての生活を援助している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あいさつ運動として、月1回の朝登校時に通学路に立ち地域の方々と交流を図っている。地域合同の防災訓練など、行事を行い、利用者の皆様との認知症に対する理解をして頂ける交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での地域の方々のご意見やご家族との交流、要望なども傾聴し、グループホームでの活動報告への意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での内容を記録した報告書を提出している。グループホーム協議会に参加しており、市との連携を取るよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や、行動を拘束しないような安全空間の配慮と行動に対しての予測と見守りの徹底を行って身体拘束のないケアの実現を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加を行い、同法人(グループホーム)との意見交換の内部研修を開催し、意識の向上と虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に成年後見制度を活用されている方がいるため、身近に学ぶ機会が持てている。その他制度等については研修にて学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分時間をかけて説明を行い家族の疑問等に丁寧に対応している。家族会などでアンケートにて理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望苦情処理委員会を立ち上げ、ご家族のご意見を参考にサービスに行かしている。2ヶ月に一回の運営推進会議を開催することで、事業所からの報告や参加メンバーより意見や要望を頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士のコミュニケーションを常に行い、月一度のケアカンファレンスや年2回の人事考課の際、自由に意見交換や、職員、職場の諸問題を討論出来るような雰囲気作りを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対し年に2回自己目標を提出させ、半年ごとに達成具合を振り返る機会を設けている。達成具合が顕著な職員に対しては賞与にて反映している。来年度の職場環境の改善に向け残業時間の削減に向け取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室により、職員を階層別に分けて計画的に研修を行っている。内部研修も同法人内の施設と共に研修を行いスキルアップを図っている。外部の研修にも積極的に参加し、会議等で研修報告を行うことで全職員に周知を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市のグループホームで構成する別府市グループホーム連絡協議会加入しており、定期的な会合や、協議会が主催する研修会などに職員が参加し他事業所と交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に寄り添うケアを心掛け信頼関係を築くようスキンシップやコミュニケーションを行い本人の心の安定が保てるようなケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族へのコミュニケーションを取り、要望に耳を傾け、信頼関係を築き、常に要望を伝達しやすい環境を整えるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービス機関の紹介や地域包括支援センターへの紹介等を行っている。緊急性がある場合は関係機関と連携・調整し、柔軟な対応を行うように努め生命の安全に留意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事への支援を行いながら、共に支えていく関係作りをしている。お互いに支え合っているという感謝を意を表し、また、人生の先輩として敬い、唯一無二の存在であることを感謝し、生きている事の喜びを感じて頂けるとともに関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係を大切に、つねにコミュニケーションをとり、共に本人を支援していく様に心掛けている。また、家族を交えた担当者会議を行っているが、遠方にて出席が出来ない方に対してはお手紙にて近況をお知らせすると共に、郵送にてケアプランの同		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の一環として、家族や知人と共に過ごす行事を企画している。住みなれた場所への訪問なども行い、支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係や性格を職員が周知し、コミュニケーションの橋渡しをしたり、座る席の位置関係などに気配りすることでお互いが一つ屋根の下に住むものとして協力し合えるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりやむを得ず退去される方は居宅ケアマネジャーに引き継ぎ、継続的なフォローをしている。他の施設に移られた方には面会に訪問したり交流を続けられるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に担当職員が付き、本人の思いや要望を把握し、ケアプランに取り入れている。希望や意向を明確に出来ない方に対しては表情などから真意を推し量ったり、家族から情報をいただき本人に沿ったプランに心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーからの情報収集または家族や後見人の方の来園時や電話などで詳細を聞くなどで把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や本人から伺った情報を把握しながら24時間シートを作成し、ケアスタッフの情報をあわせ把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のその人らしい生活を過ごせるように、本人や家族からの要望・意見を聞き、職員間での意見交換をカンファレンス時に行いケアプラン作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しを定期的に行い、プランの遂行状況のモニタリングを行っている。期間中に状態が変化したり問題が発生した時は臨時のカンファレンスを開き検討している。変更したプランは随時計画書の変更を行い実施に確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や買い物その他外出等の支援を行っている。介護度が重度化されている利用者には、食事形態の工夫、本人の趣向に合わせたメニューなど、満足して頂ける様随時柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域住民として、地域の行事(運動会、盆踊り等)に参加をしたり、実習生の受け入れ等を積極的に行っている。地域の防災訓練を合同で行い、災害時の協力依頼や施設の消防訓練にも参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人や家族の同意を得て、定期的に職員の同行で協力医に受診している。また、希望に応じて昔からのかかりつけ医に家族の同伴で受診している方や、主治医による往診など出来るだけ希望に添うよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を行い、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をしてもらい1週間に1回の訪問にて体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行、情報提供し、混乱のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。1ヶ月を越える入院となると施設を退去することとなるため、職員による病院訪問や快復状況の確認を行いながら、主治医とも退院計画の相談を行うなど連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期対応指針を作成し、職員全員で施設の方針を共有できるよう意識統一を行っている。またその旨を家族や本人につたえ希望等へ確認を行い、状況の変化に合わせて話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを職員全員で回覧し、内部研修にて主な急変時の対応を研修している。消防署の協力により心肺停止時の対応、蘇生法について学んだ。また同施設でAEDを設置しており、AED使用の実施法及びその際の留意点の講習も受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に避難訓練を行い、また、地域の方々の協力をお願いしている。地区の方々と災害訓練を開催し、災害時の協力体制を気づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を行い、個人情報やプライバシー保護に対する研修や、施設全体で職員のマナー委員会を設け、利用者を高齢者として敬い、言葉遣いや態度の指導・教育、啓発を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う介護を基本とし、本人の思いを表しやすい環境を常に整えるよう気配りしている。考えを表す事の困難な利用者へも、表情や立ち振る舞いから意志をくみ取る事の出来るよう、本人の意向を確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な業務の流れはあるが、利用者の体調や生活歴、要望に合わせた生活の支援を行っている。夜の消灯時間など、習慣に合わせた柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人の好みを考慮しながら、職員は選びやすい様に声掛けや準備をし、援助している。化粧や整容についても、物品の準備や声かけを行い、本人のその時の状況に応うじて支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況、体調に応じてその方にあった役割を行って頂いている。食事は本人の嗜好や、体調に合わせた食事を用意し、楽しみながら食事出来るよう支援している。食事全体が和やかに楽しくなるよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを行い、記録し、大まかな摂取量を把握している。嗜好調査を行い、食べられない物は別メニューで出したり、利用者の嚥下や咀嚼力に応じて、粥やミキサー、きざみにして出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が認識しており、口腔ケアの内部研修も行った。毎食後歯磨きや義歯の洗浄の声かけ、援助を行い、一人ひとりの力に応じてケアを行っている。希望により訪問歯科に依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の体調や状況に合わせて、トイレ誘導、介助を行い、オムツや尿取りパットを使用している。個々の尿意の有無や意思を尊重し排泄パターンを職員間で把握し誘導や声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は玄米粥、昼は玄米1、白米2の主食を実施したり、野菜や乳製品を主体としたメニューなどで、便秘予防に取り組んでいる。朝のラジオ体操を習慣化したり、腹部マッサージを行っている。また主治医と相談しながら便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面や清潔保持に配慮しながら、洗体出来ない部分については一緒に行っている。浴槽に入る事が困難な方にはリフト浴を使用し、入浴を楽しんで頂くよう支援している。個々のペースや体調に合わせて入浴を楽しんで頂くよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は、体調やその日の行動、要望に対応し、居室でゆっくりして頂くようにしている。出来るだけ個々の生活リズムに合わせて就寝していただき、テレビを見たり、部屋で過ごしていただきゆっくりとした時間を過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人ファイルに既往歴や受薬内容をファイルし、全職員が把握するように努めている。臨時薬や定期処方が変わったときは伝達ノートに記載し申し送りを行い、様子観察、状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味趣向を職員が把握し、外出や、馴染みの歌などを楽しんで頂いたり、昔、ご家族と楽しまれたテレビ番組と一緒に楽しんでいただいている。家事は個々の能力に合わせ、お願いし、満足感が得られるよう、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ、散髪等の機会を作り、戸外に出て気分転換やストレスの解消に努めている。行きたい場所への要望にも対応したり、ご家族との団らんを過ごして頂けるような、一時帰宅などの支援にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行した時に、少額のお金(お小遣い)を個人管理してもらい、小遣いの中から嗜好品を購入し、自分で精算する場面を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置しており、いつでも家族や友人と電話でゆっくり話せるように支援している。また、家族、友人からの手紙には、職員が援助し、声かけを行い、お返事を書くなどして、関係が途絶えないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内を季節に応じた壁面の飾りや人形などの飾りを置き、季節感を取り入れている。リビングでは他の利用者や職員と共に過ごし、調理をする職員の姿や調理の香り、音など過ごしていた環境に近い居心地の良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは仲の良い利用者同士で過ごせるような席の配慮を行っている。椅子や机を配置し、居心地の良い空間作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と共の写真や、思い出の品などを飾ったり、本人の好む飾りを工夫している。自宅で使い慣れたソファやテーブル、家具類を自由に入れていただき、ゆっくりと過ごせるような居心地の良い空間を心掛け、個々の個性に合わせて部屋作りを実施し、常に		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心して暮らせるような環境を常に職員間で討議し、困難や失敗が生じたとき、解決策を出し合って対応している。変化に応じて何度も話し合いを行い、本人の力が出せるよう追求している。		